

平成25年度 第2回 社会教育委員会会議・公民館運営審議会会議録

日 時：平成26年3月25日（火）午前10時～11時30分

場 所：鳥取市文化センター 2階 第2会議室

出席委員：＜委員＞栗岡委員、徳田委員、村山委員、森田委員、須崎委員、
吉澤委員、米沢委員、土井委員、外川委員、田中秋年委員、
田淵委員、伊藤委員、田中豊朗委員、清水委員、大西委員

（欠席：中嶋委員、松本委員、荒木委員、森田委員、大角委員）

＜事務局＞北村課長（生涯学習課）、吉田課長補佐（同左）、谷口青
少年係長（同左）

※発言内容等について、事務局で一部加筆訂正しています。

1 開 会（進行 北村生涯学習課長）午前10時

2 会長あいさつ

3 協議事項（進行 土井会長）

これ以降、土井会長が議長として進行した。

（1）平成25年度会教育関係事業報告について

（事前に配布した資料をもとに事務局説明）

〔委員〕 各種研修会について、26年度の予定には中四国大会への参加が
予定されているが、25年度はなかったのか。

〔事務局〕 25年度は大会事務局からの要請で委員1名に御参加いただき、
市からは職員を1名派遣した。

（2）平成26年度社会教育関係事業計画（案）について

（事前に配布した資料をもとに事務局説明）

〔議長〕 私から補足説明させていただく。ものづくり教室に関して、文化
センター1階のフリースペースに来年度「Fablab」という工房を開設
する。ものづくりの最新の専門機器を設置し、子ども達のみならず成
人も参加できるものにする。5月半ばにオープンする予定である。

〔委員〕 中四国研究大会に参加したが、全体会で社会教育委員不要論があ
ると聞いた。社会教育委員の存在も知られていない。学校教育に重点
がおかれ、社会教育がないがしろにされている印象がある。もっと社

会教育活動を市民に理解してもらう活動が必要ではないか。鳥取市公民館連合会と社会教育委員の合同研修会の開催なども1つの方法と考える。今後、市民一般に広く社会教育の重要性が認識されるような活動が必要に思う。

〔議長〕 今日、社会教育が軽視されていることは問題とされている。社会教育活動の成果を知らせていく必要がある。大学でも生涯学習の分野が最初に削減の対象とされている。

〔委員〕 25年度の地区公民館職員の研修について、どのようなことをしたのか。26年度の研修はどう考えているのか。

〔事務局〕 25年度までの研修は、一般市民を対象とした市民大学に参加するという教養学習的なものだった。26年度からは研修の在り方を見直すことを検討している。

26年度は研修を、館長を中心としたものと一般職員を中心のものに分ける。それぞれ専門知識に特化したものを実施する。今後3年間実施し、その検証を踏まえて改善していく。

〔委員〕 既存の公民館事業はマンネリ化していると考えている。公民館職員主体の事業ばかりではなく、地域住民主体に拡大するような職員のスキルを上げるような研修を取り入れていただきたい。

〔委員〕 サイクリングターミナル砂丘の家の利用について、学校利用が減っているとあった。この施設を利用する際、サイクリングコースはどのようなになっているか、施設ではどのような研修ができるのか、周辺にどのような施設があるのか、情報提供をしてはどうか。

〔事務局〕 今後検討していきたい。

(3) 今後の鳥取市公民館運営審議会及び鳥取市社会教育委員会議の活動について(案)

(事前に配布した資料をもとに事務局説明)

〔議長〕 小委員会の立ち上げについていかがだろうか。

〔委員〕 様々な分野から若い方も入ってもらってはどうか。

〔事務局〕 小委員会のメンバーはこの委員会の代表者から出ていただくことにしている。

〔議長〕 小委員会の立ち上げについて承認いただけるだろうか。

(異議なし)

〔議長〕 小委員会の委員選出についてはどうか。

〔事務局〕 学校関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、学識経験者の委員それぞれから委員をでていただくが、年度替わりの時期ということ

もあり、選出は会長一任とさせていただきたい。

〔議長〕 よろしく願いしたい。

会議開催の予定として資料に議題が挙げられているが、今の課題を踏まえてどのように絞り込んでいくか。

〔委員〕 委員の任期と委員の選出母体の役員任期にずれがあり、継続して検討していくことが難しい状況にある。

〔議長〕 そのような問題も踏まえて、課題について集中的に議論できる小委員会を活用したい。

〔委員〕 変化の大きい時代を踏まえると、柔軟な発想ができる人選をお願いしたい。

〔議長〕 事務局の提示した課題の他に、小委員会で検討すべき課題を提案させていただきたい。

〔委員〕 小委員会の委員について、所属団体の動向にとらわれず2年間は任期が保障され、継続検討できる形にしてはどうか。

〔議長〕 基本的には単年度である程度の結論を出す形にしていきたい。

〔委員〕 単年度で提言なり答申を出すということは難しい。

〔事務局〕 2年間の任期で事務局が出した課題にすべて提言や答申を出す必要があるわけではなく、重点的に検討する課題を選んでいただきたい。
また、事務局の案にとらわれず検討課題を単年度単位に検討していただき、継続して検討が必要であれば翌年度も、ということもありうる。

〔委員〕 提言書をつくること自体に力点がおかれ、作成してそれだけで満足してしまうことがある。提言する以上は、それを活かしてもらうことが大切である。そのためには、現場の要望や意見を聴く機会を設け、取り入れていくことも必要と考える。

〔委員〕 個別具体的な課題に取り組む前に、鳥取市全体の現状と課題を整理することが前提になるのではないか。

〔委員〕 高齢者の学習成果を社会に反映することについて、高齢者がもつノウハウを社会に還元することも取り込んでいただきたい。

公民館のあり方について、地域主体のあり方という観点も取り込んでいただきたい。

青少年の非行防止について、子どもの頃からお金の扱いについて学ぶことはどうか。また、他県では青少年による地産地消の取り組みがあるので参考にされたい。

〔委員〕 事務局提案の議題（案）を高齢者の問題、青少年の問題、その他の問題に分類して検討してみてはどうか。

〔委員〕 我々の立場を考えると、審議対象に公民館の課題と家庭における子育て支援や学校・地域とのつながりを深める支援策について検討していくことがよいのではないか。また、公民館は、まちづくりの仕事も行っているので多忙である。提言が理想論ばかりにならないように気をつけなければならない。

〔委員〕 鳥取市のこれからの課題を考えたとき、公民館の問題と住民の企画参加に集約されていくように考える。

〔委員〕 まずは「公民館の振興策」を考えていけば、すべての課題に通じてくると考える。

〔議長〕 課題を大きく分けると、公民館の課題、青少年の課題、学びの課題と3つの枠組みになる。ここでの議論をふまえて、理想論ではなく具体論を小委員会で検討していただきたい。

(4) その他

なし

4 その他

なし

5 閉会 午前11時30分